健康♪外来ニュース

糖尿病の薬

No. 57　令和6年1月15日

GLP-1ダイエット

＊＊＊

GLP-1受容体作動薬には脳の食欲調整と胃の蠕動運動抑制によって体重減少作用があることが証明され、同成分の「ｳｺﾞｰﾋﾞ」（週1回皮下注）が2023.11から肥満症治療に保険診療で使用が許可されました。対象は肥満関連の健康被害をもつBMI 27kg/m²以上の方など。治験成績では、投与68週間（約1年半）で、平均体重は87から75（kg）に約12kg減少し（変化率：-13.4%）、83%の人で5%以上の体重減少を認めました。

当薬剤を美容目的（GLP-1ﾀﾞｲｴｯﾄ）に使用しないように、保険診療できる病院を常勤の循環器、内分泌、糖尿病学会の専門医がいる教育研修病院に限るなどして規制しています（厚労省）。

医療法人 祥佑会
藤田胃腸科病院
〒569-0086 高槻市松原町17-36
TEL 072-671-5916
FAX 072-671-5919

健康♪外来
水曜日 14:00～17:00（要予約）
担当：中嶋

糖尿病の薬は血糖を減らす薬

＊＊＊

糖尿病は、血中のﾌﾞﾄﾞｳ糖（血糖）が高値を持続する病気です。膵臓（尾部）のβ細胞から分泌されるｲﾝｽﾘﾝは、肝臓、筋肉、脂肪組織に作用して血糖値を下げる働きをします。体のｲﾝｽﾘﾝ絶対量が少ない1型糖尿病の治療は、注射で外部からｲﾝｽﾘﾝを補います。2型糖尿病（ﾒﾀﾎﾞの人など）では、全身でｲﾝｽﾘﾝ作用が効きにくい状態（ｲﾝｽﾘﾝ抵抗性）が生じているので、膵臓からのｲﾝｽﾘﾝ分泌をもっと増やす、あるいは他の方法で血糖を減らすために、以下の薬を使います。

❶ｽﾙﾎﾆﾙ尿素（SU）薬、ｸﾞﾘﾆﾄﾞ薬（速効型）：膵臓のSU受容体に結合してｲﾝｽﾘﾝ分泌を増やす。肝・腎障害の人や高齢者で低血糖を生じやすい。DPP-4阻害薬：食事摂取によって腸の細胞から出るｲﾝｽﾘﾝ分泌促進ﾎﾙﾓﾝ（GLP-1などのｲﾝｸﾚﾁﾝ）が分解されるのを血糖依存性（高血糖時によく働く）に止めてｲﾝｽﾘﾝ分泌を増やす。GLP-1受容体作動薬：膵臓のGLP-1受容体を血糖依存性に刺激してｲﾝｽﾘﾝ分泌を促す。

❷ﾋﾞｸﾞｱﾅｲﾄﾞ（BZ）薬：肝臓の糖新生を抑え、ｲﾝｽﾘﾝ抵抗性を改善する。2型糖尿病の第一選択薬。ｸﾞﾘﾐﾝ薬：ﾐﾄｺﾝﾄﾞﾘｱに作用してｲﾝｽﾘﾝ分泌促進・抵抗性改善を示す。ﾁｱｿﾞﾘｼﾞﾝ薬：ｲﾝｽﾘﾝ抵抗性をよく改善するが、むくみ、体重増加を生じる。

❸SGLT2阻害薬：腎臓の近位尿細管にある糖再吸収装置（SGLT2）の働きを止めて、尿から体外へ糖を排出する。

❹α-ｸﾞﾙｺｼﾀﾞｰｾﾞ阻害（α-GI）薬：腸内で炭水化物からﾌﾞﾄﾞｳ糖への分解を阻害して食後の血糖上昇を抑える。

体重増加はｲﾝｽﾘﾝの副作用！

＊＊＊

ｲﾝｽﾘﾝ不足状態では、‘血糖’は細胞内に取り込めず‘尿糖’として体外へ捨てられます。治療でｲﾝｽﾘﾝが増えると、‘尿糖’が減り、同化作用が働いて脂肪（筋肉）が多く作られるので体重は増加します。血糖依存性にｲﾝｽﾘﾝを増やすDPP-4阻害薬やGLP-1受容体作動薬、ｲﾝｽﾘﾝを介さないBZ薬、SGLT2阻害薬、α-GI薬では体重減少が見込めます。